

私たちの人となり - About The Norinchukin Bank -

農林中央金庫は、農業協同組合(JA)、漁業協同組合(JF)、森林組合(JForest)、その他の農林水産業者の協同組織を会員(出資団体)に持つ民間金融機関です。私たちは、こうした協同組織のために金融の円滑を図ることにより、農林水産業の発展に寄与し、もって国民経済の発展に資することを目的としています(農林中央金庫法第1条)。

また、上記の協同組織は、貯金や貸出などの業務を行う「信用事業」のほか、農林水産業者に対して事業や生活面などの指導を行う「指導事業」、農林水産物の販売や生産資材の購買などを行う「経済事業」、共済などを取り扱う「共済事業」など、さまざまな事業を行っています。

系統組織とは?

上記のような幅広い事業を行う市町村段階のJA・JF・JForestから、それぞれの事業ごとに組織された都道府県段階の連合会、そして私たち農林中央金庫を含む全国段階の連合会などにいたる協同組織を「系統組織」と呼んでいます。

リテールビジネス

JAバンク・JFマリンバンクの一員としてさまざまな金融機能を発揮

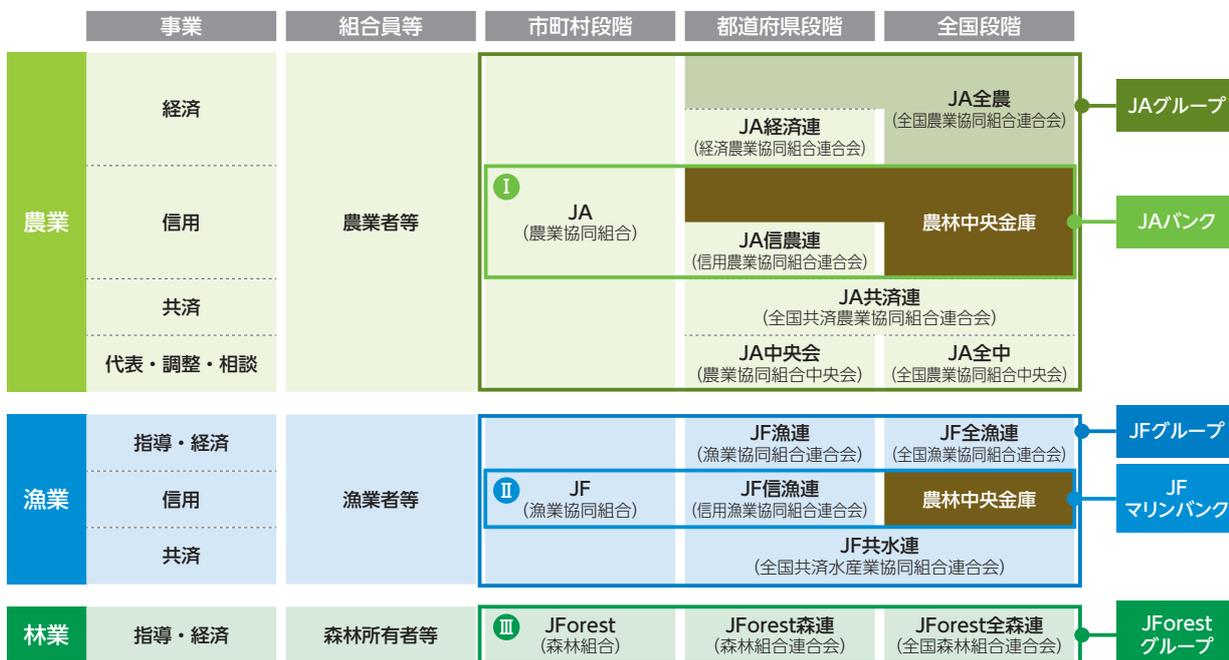
▶ P.27

3つのビジ

主な系統組織の仕組み

市町村段階のJA・JF、そして都道府県段階のJA信農連(信用農業協同組合連合会)・JF信漁連(信用漁業協同組合連合会)および全国段階の当金庫にいたる「信用事業」の仕組みや機能を「系統信用事業」と呼び、実質的に1つの金融機関として機能する「JAバンク」、「JFマリンバンク」を展開しています。

また、信用事業を手がけないJForestグループとの間では、活動への助成や人材育成などで親密に協力・連携を行っています。



食農ビジネス

食と農林水産業の
ファーストコール
バンクへ

▶ P.23



農林中央金庫

投資ビジネス

JAバンク・JFマリンバンクの
運用の最終的な担い手
として安定した収益を追求

▶ P.31

パーパス(私たちの存在意義)

持てるすべてを「いのち」に向けて。

ステークホルダーのみならずとともに、
農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、
持続可能な地球環境に貢献していきます

パーパス(私たちの存在意義)を 実現・発揮していくための3つのビジネス領域

農林水産業を取り巻く環境は時代に応じて変化しています。こうしたなかで、当金庫は、金融業務を通じて農林水産業の発展に貢献する唯一の民間金融機関として、役割を果たし続けるために、ビジネスモデルを柔軟に変化させてきました。

現在、そしてこれからの時代に向けて、私たちがパーパスを実現・発揮していくために、担う役割として主軸に置くのは「食農ビジネス」「リテールビジネス」「投資ビジネス」の3つのビジネス領域であり、これらを支えながら、新たな課題にも取り組む「コーポレート」が基盤にあります。

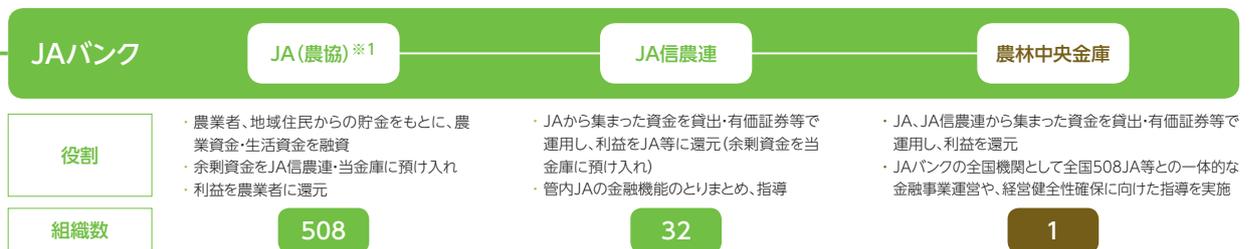
※コーポレートの主要な取組みは「人材マネジメントの高度化に向けた取組み」や「デジタルトランスフォーメーション(DX)」など(P47～56)をご覧ください。

コーポレート

ネスを支える機能の提供に加え、新たな課題にも取り組む

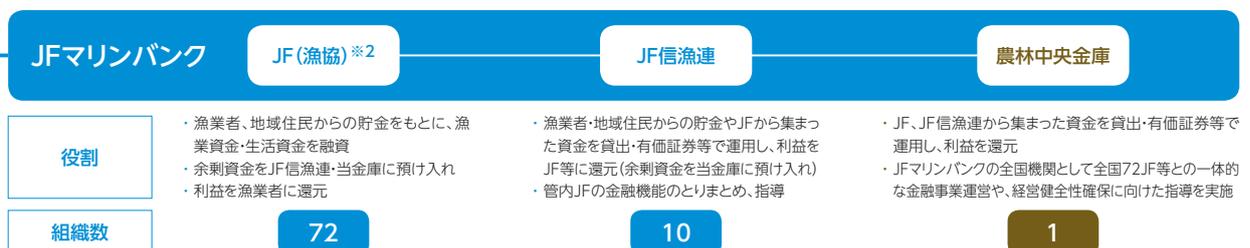
当金庫は、会員のみなさまからの預金(その大部分は、JA・JFが組合員などからお預かりした貯金を原資とした預け金)や、市場から調達した資金を、農林水産業者、農林水産業に関連する企業などへの貸出のほか、有価証券投資などによって効率的に運用し、会員のみなさまへの安定的な収益還元に努めるとともに、さまざまな金融サービスを提供しています。

JAバンク：組織の概要 2024年4月1日現在



※1 JA(農協)数の508はJAバンクの会員数

JFマリンバンク：組織の概要 2024年4月1日現在



※2 JF(漁協)数の72はJFマリンバンクの会員数